

感染症に気をつけよう！



平成26年
【5月号】

横浜市内の感染症流行状況

感染症	流行状況		説明	【 】は解説付き既刊号 ← クリック
麻しん (はしか)	★ 散発	→ 横ばい	全国的に報告が続いており、 <u>今年はすでに昨年を上回っています</u> 。下の解説を参考にして、予防しましょう。【3月号】	
伝染性紅斑 <small>こうはん</small>	★ やや流行	→ やや増加	リンゴ(ほっぺ)病とも言われます。妊婦の感染では胎児に影響が出ることがあります。 <u>予防には手洗い</u> が一番です。	

今、気をつけたい感染症 麻しん

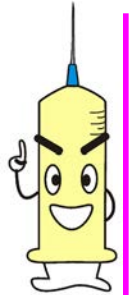


海外で感染した人から、国内で他の人に感染が広がる例が報告されています。職場で感染したケースもあります。患者の半数以上は、予防接種を受けたことが確認できていません。



原因は麻しんウイルスの感染で、感染力がとても強く、免疫のない人が感染すると、ほぼ 100%発症します。10~12 日位の潜伏期の後、初めは熱・咳など、かぜのような症状です。38℃以上の高熱が 3~4 日続き、いったん下がりかけ、再び上がるとともに全身に発しんが現れます。ほほの内側に白い斑点(コプリック斑)が出ることもあります。

肺炎や脳炎などの重い合併症を起こして、命に関わる場合もあります。麻しんが疑われる時は、事前に電話で相談してから、早めに受診しましょう。



特別な治療法はありませんが、2 回の予防接種で防ぐことが可能です。次の時期に、麻しん・風しん混合(MR)ワクチンを無料(定期接種)で受けられます。このワクチンは麻しんと風しん両方に効果があります。早目に接種しましょう。

◆ 1 回目 1 歳以上 2 歳未満

◆ 2 回目 5 歳から 7 歳未満で小学校入学前の 1 年間

また、海外旅行を予定している場合も、予防接種を受けておきましょう。

